

## [Shun Onozawa 氏コメント]

こんにちは。

ジャグラーの小野澤です。

この度、ナランハロシアンボール Shun Onozawa モデルが完成しました！  
こちらは、僕が得意としているシャワージャグリングに特化したボールです。

先程も触れましたが、僕はシャワーと呼ばれるジャグリング技を得意としています。  
僕のシャワースタイルはボールをとにかく高くあげる。サイトスワップでいうとD~Jの高さを扱うことが多いです。

シャワーの技は、早い動きの中で高く投げ上げる動作が多いので両腕、特に右腕の負担がとて大きいです。現在一般的に販売されているボールは95-110gあたりの品質が多くて、練習しているとすぐに疲労が溜まってしまい、手首が痛くなってしまいました。

例えばノルウェーの某ロシアボールは75mm 67g。投げた時の抵抗感も、重量バランスも良好でとても優れているボールです。でも、75mmは僕の手には大きすぎる。  
僕、手がめっちゃ小さいのです笑。だからキャッチをするタイミングでガッチリ掴めなくて、手の上で跳ねかえってしまう感じがありました。シャワーのように速く高く投げなくてはいけない技のとき、その一瞬のキャッチ時のフワつきが僕は少し苦手に感じていました。

より高く、より速く、より難易度が高い技を美しくこなしていくためには、  
重量を軽くしつつも、フワフワせずに安定感を出せるボールが僕には必要でした。

このコンセプトに従って、今回のボールではAとBのタイプの異なる2種類の砂を独自のバランスで配合しています。

Aは、粒が非常に細かく、動く際に液体のように比較的まとまって移動をする砂。

Bは、粒立ちが荒くキャッチ時にズシリとした重量感を感じるタイプです。

Aの砂は、量を少なくしても投げる際の抵抗感がしっかりと手の感触として残る特徴があります。だから、しっかり狙ったところに投げている実感がある。その一方で、球をキャッチした瞬間にピタッと止まらず、ほんのわずかに遅れて重さの中心が手に落ちてくるから、

手の上で転がってしまったり、ジャグリングのリズムとキャッチ時の感触が噛み合わないことが発生しやすいです。速い手の動きの中では、砂の動きの一瞬のモタつきが体感として気持ち悪さにつながったり、必要のない筋肉を浪費することにつながります。カスケード軌道の技は非常に投げやすいのですが、シャワー技を行うときには少し課題を感じる砂でした。

B は、砂同士の分離性も高く、ロシアンボール特有の癖が少なく、ボールを投げた時にブレることなく真っ直ぐ飛んでいく砂です。特にキャッチ時の砂の動きがすごくいい。手でキャッチした瞬間に重さの中心が手のひらに落ちてくる感じがします。砂の動きとボールの動きにピッタリとした一体感があって、フォームも安定します。でも量を減らした時にその特徴が裏目に出てしまいました。少量で使おうとするとその癖の少なさから、全体がそのまま軽くなった感じで、キャッチ時の沈み込みが弱くなってしまおうという課題がありました。

この A、B 2 種類の砂を 1:1、3:4、8:9、9:11 など、1g 単位で比率を何度も変え、最適な配合を研究しました。最終には 55g と大幅な軽量化を図りながらも、心地よい抵抗感と軌道の安定性、そしてキャッチ時のブレの少なさを実現できたと思います。ナランハロシアンボール 70mm のシェルに最適な分量、比率を探究したボールになるため、70mm 1 サイズのみの展開となります。ボール構想から 29 回の試作を経て辿り着いた自信作のボールです。

他種のボールと混同しないように、穴をふさぐパーツにはラメ入りのシルバーの接着剤をセレクトしています。

僕は 5 ボール以上に取り組むジャグラーに特におすすめしたいですが、その軽さと安定感から、年齢が小さい方や女性の方にもおすすめです。

ナランハロシアンボール Shun Onozawa モデル ぜひお楽しみください。